



庄内 賢一さん



内田 芳一さん



伊藤 弘行さん



市原 志朗さん



小川 幸廣さん



実川 雅之さん

大澤 やはり祭りは汗を流してみんなと同じことをやるっていうのがいいんじゃないですか。汗も流さないで、みんながバラバラなことをやっているんじゃないからねえ。

実川 みこしだってもっと軽けりや楽でいいんでしょけど、それでは祭りにならないもん、やっぱり大勢で担ぐところがいいんじゃないかな。
斉藤 地域の条件の違いもありますね。清水なんか各休憩所の間が4・5メートルもあるからね。で、みこしの場合には不思議なもので、交通渋滞の中を担がないと意気が上がらないですね。田んぼの中の道で燃えろというのが無理なのかもね。(笑い)

内田 上町にも昔から山車があるんですが、飾る程度で実際には引いていません。その代わりに、自動車に飾りを付けて「引き太鼓」として子どもが引いているんです。評判もいいですね。やっぱり重い山車は大変ですよ。

司会 伊藤さんの地区の祭りはスムーズにしているんですか。

伊藤 8月下旬なんて準備の段階ですが、たとえば「はしご獅子」の練習をしても、自分ひとりくらい行かなくても、っていう考えがなかにあるんです。その辺が問題になっちゃうんです。

祭りも7年、8年続けてきて、出し物がマンネリ化して飽きられているところもありますね。やっぱり少しずつでも内容を変えていかないと来てくれる人が減っちゃいますから。

勝俣 それは確かにありますね。毎年みこしにはやし、そして踊りでは飽きちゃいますからね。だから、うちの地区では「花火をやろう」つ

ていうことになって今年初めてやっただけです。毎年ちよっとずつ変えて、参加してもらうためにもがいているんですよ。

マンネリ化を断ち切る アイディアづくし

伊藤 仮装行列をやったときがあるんですが、かなり請けましたねえ。

斉藤 やっぱり祭りは大勢でなけりあね。どこの祭りも役員さんは大変な苦勞をしているんですね。むりやり来てもらうんではなくて、自然に集まってもらうためのアイディア合戦ですね。

演芸大会、特に歌の場合、地元の人に歌ってもらうと「ああ、またあの好きなやんらうが歌うのか」ではまいっちゃう。だから今年は、コンピュータの専属歌手を呼んだんです。安かったですけど。(笑い) 伊藤さんにはただで出演していただきまして申し訳けない。(笑い)

花火は雨と風でまいりました。いつ上げたらいいのかわかんない。結局暗くなったらすぐに上げちゃいました。そうしたら隣の新島も同時にドカーンでしょ。ちよっと芸がなさすぎましたね。一緒にできたらもっと迫力あったと思いますね。でも天気には泣かされました。

実川 うちの方も上町・本町で相談して日程を決めたんですが、2日間とも雨でしたから…。当初は7・8日という話しもあったんで残念で